

沙羅の樹のひとりごと

♥この時節、文庫にはたくさんお客があると見えて、主、大慌てで植木屋のTさんに連絡。この間まで高い木によって枝きりしていた90近いTさんだが、今風呂に入っている、と、老人の連れ合いさんの話。仕事を頼んでおいたが昨日の今日ではこちらの都合どおりにやくまい。いつもぎりぎりの主(先手必勝?と亭主にハツパかけられながら生来の尻に火がつかないと思ひ出さない無精者)。ところがところが、である。7月の文庫便りに頭をひねりはじめた主の耳に、ガーガーという音が。子沢山のTさん息子が芝刈りに駆けつけてくれて、一刻あまりのうちにわが庭もさっぱりしたという次第。だが、どうもわしの下には芝が寝付かないなあ。♥薔薇が好きだという主に、親切にも岩ごつごつのこの庭に汗を流しながら薔薇を植えてくれた奇特なFさん夫婦。植えた種類が何と『ノックアウト』。名前に似合わず可憐な紅い一重の花をつける。丹精のおかげでこのふた月庭の隅を明るくしてくれている。Fさん夫婦、さらに懲りずに門を入ったところにお手製花壇を作ってくれた。秋にはサルビアの花がみなさんの目をほころばせてくれることであろうよ。

文庫あれこれ◆沙羅の樹文庫もおかげさまで3年目に入ります。利用者がひとりでもふたりでもあればいいわ、と、気楽に始めた文庫。今では240人以上の会員数になりました。すでに200冊読破の可愛い読書マスター?も出現。◆暫くいらっしやらない方もありますが、それでも2日間で100人近い方たちが本の返借をしてくれられます。時には文庫の中は大きい小さい人たちが絡まって大混乱。でもそれが途切れた、まるで汐が引いたようなほっと静かなとき。何人かで、本の話が盛り上がります。◆『西の魔女』観た?本読んでから観たほうがいいわよ。シャリー・マクレーンの娘がおばあちゃん(魔女)をやっているのよ。見事な日本語を話すそうよ!…◆ここから自分達の老後や老老介護のはなしに発展することもあります。でもおひとりおひとりの積み重ねてきた生の軌跡と愛着が、一緒にいる者に豊かな安らぎを与えてくれている、そんなひとときです。思いがけないわたしの財産です。会員に感謝。◆友の会の存在も don't forget! ちょっとお声をかければ集まってお手伝いくださいます。そしてその輪の中心に中西、森川さんがいて…。ちょっとしめっぽくこの2年間を回顧した西村でした。◆小さい人の数も増えました。そしてひとりひとりが、1ヶ月会わないでいると大きく賢くなっている。み~んな人生を楽しんでいると思って続けられますように! ◆延び延びの蔵書目録やっと手をつけました。来年はじめには使い勝手のよいシステムをNさんに助けていただいてご披露します。約束ゲンマン嘘ついたら針千本の~むぞ?! (西村)

明日は海の日のおはなし会(夕方5:00から)

お天気少し心配ですが、みなさんお誘い合せて伊豆高原駅クスノキさん宅へお越しください。!椅子を用意してお待ちしてます。音と歌のしらべもあります。

★子どものためのおはなし会(文庫開館記念)★

7月21日(月)朝10:30~ 沙羅の樹文庫

いつもの日曜のおはなし会よりたくさん、いろいろあります! 小さいお友だち、来てね!

20日(日)のちいさなおはなし会はありません。

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

秋の夜長のおはなし会 10月19日(日)6:00~

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

♥7月21日(月)は、おはなし会(文庫開館記念)だけで、貸出返却はありません♥

◆8月は8、9、10日の3日間、30、31日の2日間の計5日間開館します。

◆9月は通常の第3土日(20、21日)です。

◆10月は通常の再3土日(18、19日)です。

◆文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会

★8月は9日(土) 9月は20日(土)です。
(11:00~13:00)

沙羅の樹文庫便り

No.23

(2008年7月号)



(改めて、私たちは、すり鉢を伏せたようなこの大室山の裾野に住んでいるのですね。あなたのおうちはどの方向でしょう? 大島も見えます。)

おわりのない海

工藤直子(『ともだちは海のおい』理論社より)

ひとの心にうまれた

塩からい海は

あふれつづけて おわりがない

海はすべてを溶かしこみ

海は 海のままである

喜びのしぶきは溶けて 海になる

悲しみの固まりも溶けて 海になる

おどろきも おそれも

恥じらいも 誇りも

すべては溶けて海になるばかり

ひとは ふところの

そんな海を のぞきこむと

なぜか ほっとする

なぜか ほっとして 思う

<また あした>

紹介・子どもの本 大人の本

★会員から会員へおすすめの1冊★

(文庫の棚の本を紹介していただいております。)

『惑星の泉』(丸山健二著 文藝春秋 1987)

なんて不思議な本だろう！丸山健二の本は2冊目だけれど、そして、この『惑星の泉』は以前読んだ『水の家族』と同じ「水」をテーマにしているけれど、又、違っている。

物語は、戦後、左脚をひざ下から失い復員してきた父と爆撃を受け焼けてしまった町から離れた掘立小屋に住む主人公の少年を取り囲む、闇市で儲けた青年とその汚れたお金の援助をこぼむ青年教師の死を描いている。

これだけ読むと、なんと暗くて深刻な内容だと思われるかもしれない。だが、人々が飲み水として汲みに行く街はずれの小さな泉に象徴されるように、何か明るい先が、人間の未来への希望が、読んでいるうちに予感できる、のだ。

それは、丸山健二の文章が流れるようにリズムがあり、まるで長い詩を読んでいるように感じるから、なのか……。

どんな状況でも枯れることのない輝く泉と海へと続く丘が、夏になると大輪のひまわりで埋めつくされる情景は、まるで映画を見ているように私の頭の中で形づくられ広がる。ほんとうにこんな文章を書く人はどんな人なのだろう。(森川理恵)

◎夏休みにおすすめの本◎

梅雨があけて、暑い夏がやってきました。

夏になると、きまって「戦後〇〇年」の特集があちらこちらに見られます。60年以上を過ぎて、それでも私のような戦中生まれでさえはじめて知る事実に、愕

然としたりもしますし、きちんと歴史を学んでこなかったという反省をしたりもします。ですから、毎年恒例のこうした特集も、無駄ではないと思ったりします。こんな時いつも、ドイツと日本の歴史認識のちがいが言われたりしますが、外国の児童書の中には、すばらしいものがたくさん見られます。それでもあえて、最近読んだ本の中から取りくみやすい日本の本にこだわってあげるとすれば、新刊の長崎源之助著「汽車」(ポプラ社)と、少し前に「手塚治賞」をとって話題になった、こうの史代著「夕風の街、桜の国」(双葉社)でしょうか。

前著はたくさんの児童文学を書いている長崎源之助が、自分の体験をふまえて、長崎の病院で出会った子どもたちとの交流を書いたものです。少し前の新聞に、この本を編集した若い女性編集者と、長崎の作品「ひろしまのエノキ」の感想文を書いてきてくれた時からのながい交流をとおしてできあがったことが出ていました。海を見下ろすがけの上から、子どもたちとみんな「汽車」を聞くシーンは映画をみているように心に残りました。その子どもたちは、原爆で目が片方見えなかったり、顔にケロイドがあったり、耳が無かったりするのです。親をなくした子どももいます。汽車を追ってかけ出す子どもたちに未来はあったのでしょうか。

「夕風の街」は、劇画です。世代的にまんがには慣れていない私ですが、これは賞をとった時に新聞に大きく紹介されて手にとりました。貧しい生活の中で見つけた恋が、これから希望へと変わりそうな時に、血をはいて死んでしまう女の子。原爆が隠され、被爆した事が隠されていた辛い時代があったことがわかります。知らない事を知る事から、新しい一歩ははじまるのですよね。 08. 7. 16 (中西 景子)

新しくいった本(08.07)

～子どもの本～

『けいこちゃん』(あまんきみこ作 西巻茅子絵 ポプラ社 2008)『汽笛』(長崎源之助作 石倉欽二絵 ポプラ社 2008)
★上記2冊は沙羅の樹の若い友人2人が編集した本。文庫にも3月に来てくれました!1冊は中西さんが紹介してくれていますね。みなさんの感想を伝えてあげたいです。

『くまとやまねこ』(湯本香樹実作 酒井駒子絵 河出書房新社 2008)『流れ行く者—守り人短編集』(上橋菜穂子作 偕成社 2008)『ダイドールと父ちゃん』(ジョーン・エイキン作 小玉知子訳 富山房 2008)

♥児童書は8月8日(金)にたくさん入れます。お楽しみに!

～大人の本～

『切れた鎖』(田中慎弥著 新潮社 2008)『人間の関係』(五木寛之著 ポプラ社)『虚空の双龍 上下』(篠崎紘一著 新人物往来社)『僕たちのミシシッピ・リバー 季節風 夏』(重松清著 文藝春秋 2008)『兄弟 上下』(余華著 泉京鹿訳 文藝春秋 2008)『一朝の夢』(梶よう子著 文藝春秋 2008)『二月三十日』(曾野綾子著 新潮社 2008)『百姓の力 江戸時代から見える日本』(渡辺尚志著 柏書房 2008)『バーデン・バーデンの夏』(レオニード・ツィプキン著 沼野恭子訳 新潮社 2008)『運命峠 1~4』(柴田錬三郎著 講談社 :文庫本)『グ、ア、ム』(本谷 有希子著 新潮社 2008)『のぼうの城』(和田竜著 小学館 2007)『響燈文学カフェ』(高橋源一郎・山田詠美著 講談社 2008)『最後の授業 ぼくの命があるうちに』(ランディ・パウシュ著 ジェフリー・ザスロー著 ランダムハウス講談社 2008)

♥夏休み、まだまだ入ります。お楽しみに!

★尚、リクエストならびにこんな本入れたら?のご意見を待っています。